

第4回鳥取・広島両県知事会議 議事録

- 日時：平成26年11月17日（月）13:30～14:30
- 場所：モンベル大山店 2階 ギャラリー（鳥取県西伯郡大山町大山115）
- 出席者：広島県 湯崎広島県知事、伊達経営戦略審議官
鳥取県 平井鳥取県知事、岡崎鳥取県未来づくり推進局長 他
- 発言：

1 開会

【岡崎局長】 それでは時間になりましたので、只今から第4回鳥取・広島両県知事会議を開催いたします。私は本日の会議の進行を務めさせていただきます鳥取県未来づくり推進局長の岡崎と申します。よろしくお願ひします。それでは開会にあたりまして平井鳥取県知事のご挨拶を申し上げます。

2 両県知事挨拶

【平井知事】 皆さん、こんにちは。本日は湯崎知事様、伊達経営戦略審議官様をはじめ広島県の皆さまにここ鳥取県は大山までお越しをいただきました。本当に感謝を申し上げたいと思います。そしてまずもって申し上げなければなりませんのは、広島県の安佐南区、北区を中心とした豪雨災害につきましてお亡くなりになられました方、また被災された方々に対しまして、お悔やみとお見舞いを申し上げたいと思います。鳥取県としても全力を挙げてお手伝いできることはさせていただきたいと、お誓ひ申し上げたいと思います。

本日は、会場をここ大山に設けさせていただきました。湯崎知事の方からも森のようちえんの仕組みについて現場をご覧になりたいというお話もございまして、そうしたことも含めましてこの大山での開催とさせていただきます。ちょうど錦秋深まりゆく中でございまして、紅葉の様子もお楽しみをいただける季節だろうと思います。こうした大自然を活かせるのが中国地方の良いところであり、サイクリングやさまざまな観光の魅力、そうしたことを連携してやっていけるのではないかと考えているところです。また、それをつなぐためにも高速道路をはじめとしたネットワークを作っていかなければなりません。地方創生の法案を現在国会で審議中ではありますが、解散含みの微妙な政局の中で注目すべき段階だろうと思います。ただ、結局は私たち広島県や鳥取県といった現場が頑張ることでこの国を興していく、そういう意味での地方創生でなければ意味がないわけでもございまして、本日、両県が県境を跨いで知恵を交換をさせていただくというのは大変に時機を得た有意義なことだと思います。これからの中国地方、さらには日本全国の分権や地方創生、それからいろんなルート設計等を含めた観光、あるいは生活、子どもたちの明るい暮らし、そうしたものを導いていける現場として、我々は手をつないでやってまいりたいと思います。

湯崎知事も驚いておられましたが、森のようちえんで子どもたちは気温も下がってくる中で元気よく歩いたり、遊んだりしています。子どもたちは人間としてしっかりと大山を踏み

つけながら大きくなっていくわけでございます。会場の左側の木立の向こう側に、蓮浄院というところがございました。そこが、志賀直哉の暗夜行路の舞台と申しますか、執筆されたところでございました。この大山の景色や暮らしも暗夜行路の終盤のところであられるわけでございます。「大地を一步一步踏みつけて、手を振って気分よく進まなければならぬ、急がずに休まずに。」そのように主人公が述懐をするわけでございます。我々の地方創生の歩みもそうだと思います。しっかりと現場、それを見極めて足を、地に足をつけながら一步一步踏みしめて上がっていかなければならない山だと思います。今日の湯崎知事のご来県を心からご歓迎を申し上げますと共に、実りの多いご議論をいただきますようお願いを申し上げます、冒頭のメッセージとさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

【岡崎局長】 続きまして、湯崎広島県知事からご挨拶をお願いいたします。

【湯崎知事】 この度の鳥取・広島県両県知事会議にあたりましては、平井知事を初めとして鳥取県の皆さまに大変なご配慮をいただきまして誠にありがとうございます。また、先程平井知事からもお話をいただきましたように、8月の豪雨災害がございまして、その際には鳥取県からも防災ヘリ1機を派遣していただき、また、職員のボランティアの皆さまにも来ていただいてお手伝いをしていただきました。この場をお借りして心から感謝を申し上げたいと思います。また元々この会議は8月26日に予定をされていたものが災害によって延期をして本日再設定をしていただきました。いろいろとご面倒をおかけいたしまして、大変申し上げます。ただ、そのときもここ大山で行うという予定だったのが、こうやって、また季節が進んでとても素晴らしいときにできたことを嬉しく思っております。

地方創生のお話でございますけれども、まさに我々地方とそれから国の動きという両方が噛み合って初めて実現をしていくものであろうと思います。我々地方側も、それぞれの特徴を活かしながら魅力を作っていくことによって人を呼び込んでいき、また、経済の活性化を進めていくといったことが必要だと思います。今日訪問させていただきました森のようちえんなども大変先進的な取り組みでありますし、まさに都会ではできない、この地域ならではの取り組みであり、これがまた人を呼んでいると、これが魅力となってここに来たいというふうにおっしゃっている方々もいると伺っております。こういったことを通じて、まさに我々地方が地方らしさを出していかなければならないと思っております。そして、この鳥取・広島両県知事会議ですけれども、これまでも「あいサポート運動」の拡大であるとか、あるいは「子育て同盟」といったこの県境を越えた、あるいは全国的なこの活動につながっているところでございます。

本日もそういった広がりが見られるような、実りの多いものと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

3 意見交換

【岡崎局長】 ありがとうございました。それではお手元の次第に沿って議論していただきま

す。14時30分までの予定でお話を進めていただきます。進行につきましては、鳥取県平井知事をお願いいたします。

○中国地方の防災体制の強化について

【平井知事】 それでは議事の方に入らせていただきたいと思います。本日は遠路を湯崎知事をはじめ、広島の皆さんには誠にありがとうございました。いくつかテーマを用意しておりますので、順次、提案趣旨も含めて発言を交換していければと考えております。

まず、中国地方の防災体制の強化につきましては、私の方からお願いをしたテーマでございます。先程おっしゃった8月の豪雨災害は大変ショッキングな災害でございました。今なおそうした避難の生活を強いられている方々もいらっしゃいます。つい先立っても、子どもたちがサッカーをできるような元気なまちにしていこうという力強い動きも出てきておりまして、災害を乗り越えようとしている広島県民の皆様の姿が私達にも非常に頼もしくもあり、また一緒にやっていかなければならない同志としての思いもございます。こちらのモニター画面に出ささせていただいておりますが、中国地方としても広域防災として体制を組んでやっていこうということにしていた矢先に今回の災害がありました。今後もいろんな災害が起きると思います。また、東南海地震のように他地域での災害に我々が共同で応援に出かけて行くというような局面もあるかもしれません。ぜひ、合同での演習を行ったり、図上訓練を行ったりして体制強化していければと思います。そういう中で私どもが少し気にしておりますのは、XバンドMPレーダという精細な密度で降雨予測ができるという分析システムが、中国地方の中では限定的で、広島県の北や山陰には届いていないところがあります。こうしたこと、あるいは災害救助法の柔軟な適応などを国に対して我々は求めていかなければならないと思います。

先程、湯崎知事が防災へりのお話をしてくださいましたが、防災へりやドクターへりなど災害の初動で役立つ、いわば飛び道具を含めた連携体制を、今後もさらに強化していく必要があると思います。ぜひ湯崎知事、広島県とタイアップをしていければと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

【湯崎知事】 ありがとうございます。先程申し上げましたように先般の豪雨災害では鳥取県をはじめとして中国各県、また中国地方を越えてですね、四国や関西からも大変なご協力をいただきました。本当に我々は感謝をしております。今回の災害そのものは、非常に局地的なものでございまして、地域で言えば数キロかける20kmぐらいの幅の限定されたところだったわけでありまして、その中でも、やはりこれだけ影響を受ける家屋等、あるいは死者を含めた被害者が多いと非常に苦勞するわけでございます。こういったことが非常に大規模に発生をする、例えば大きな地震であるとか、あるいは津波被害ということになりますと広域的な連携協力というものがまさに不可欠であろうと思います。そういった事態に備えて日頃からやはり訓練、あるいは人的交流といったことを進めておくことが非常に有益だと思います。

今回、中国地方知事会で山口県からいわゆるリエゾンの方に来ていただきまして、これは中国地方で決めているとおりでございますが、連絡調整に当たっていただきました。こういった実践での経験もちろんですし、引き続き訓練を進める中で災害にしっかり対応していく必要があると思います。特に人的関係というのは、私は非常に重要だと思っていて、突然、災害になって初めて名刺交換をするようでは、これはなかなか上手く連携が進まないということではなからうかと思えます。そういう意味では本県がこの中国地方知事会の広域防災部会の中で人材育成について担当させていただいており、今、各県の意見を取りまとめているところでもありますけれども、この人材育成、これは共同でやると当然その中で人間関係というのが生まれてくるので、将来に向けてのベースになっていくと思っております。その中でも、今後、我々の今回の経験も共有させていただいて、実効的なものにしていただきたいと思えます。

それからXバンドMPレーダであるとか、あるいは災害救助法の問題、それからヘリの連携ですね、ヘリの連携については今回非常によくできたと思っておりますけれども、そういったことも、国に対して意見をしっかりと伝えていきたいと思えます。今回も災害救助法などでは、特に災害救助法は、非常に要件が厳しいですけれども、土砂災害のようなケースだと自分の家は無事なだけでけれども、周辺が被害を受けて戻れないであるとか、あるいは目の前を人が流されていたり車が流されていたりということがあり、物理的には家に戻れるんだけど、今は、心理的に戻れない、戻りたくないという方々もいらっしゃる、鯪張った解釈をいたしますと、これは災害救助法の対象外になってしまうんですが、人間はやはり物理と心と両方あるということもありますし、そういった側面でも柔軟に適用してほしいというお願いをしておりますけれども、こういった経験を踏まえて提案していきたいと思えます。

【平井知事】 ありがとうございます。8月21日の安佐北区での豪雨は121mmという大変なものだったとかがっておりますし、やはり自然災害の恐ろしさというものを私たちは胸に刻み込まなければいけません。しかも、地球温暖化の影響でこの種の災害はいつどこで起きてもおかしくないのが中国地方だと思います。そういう意味で広域連携を図ろうということで湯崎知事の方からもご賛同をいただきました。ぜひ一緒になって取組んでいきたいと思えます。

○サイクリングを中心とした観光連携の推進

【平井知事】 少し話を転じまして広域的な観光や物産、さらには子育て、この辺をテーマにさせていただきたいと思えますが、まず、湯崎知事の方からサイクリングを活用した観光につきましてお話をいただきたいと思えます。

【湯崎知事】 先般、10月26日に愛媛県と共同だったんですが、サイクリングしまなみという大会を開催させていただきまして、高速道路を止めて7,300人弱のお客様に走っていただ

きました。大変に好評だったわけでありませけれども、今回実行して非常に感じましたのは、やはり今、この健康に対する関心が高まっているということでサイクリングをしたい、サイクリングにはまっているという人口が国内外を問わず増えているということです。それで、こういったサイクリングを活用した観光振興というのは、中国地方全体で非常に大きな可能性があると思っております、ぜひここは協力をして全体、このサイクリング有望地域と言いますか、サイクリングエリアとして認知を高めていきたいと思っております。そのためにはやはりサイクリストに走って良かったと、また走りたいと思っていただくということが非常に重要でありまして、そのための整備というのも大事だと思っております。

しまなみ海道ですと、ここに資料がありますね、このブルーラインとか、なかなか専用自転車道を整備するというのはハードルが高いものですから、青い線を引くことによって車の運転手にここを自転車が走っていますよ、走りますよという注意を促すと同時に距離表示などをつけて、サイクリストがこのルートを通って行けば目的地に辿りついていけるというようなものであります。あるいはホテルの整備、あるいは地元の皆さんにおもてなしをしていただけるような雰囲気づくりですね、これは大会以外のときでもこれはボランティアの皆さんが出てきてレモンや飲み物を配っていただいたりしております。こういったいろんな全体の整備が重要になってきませんか思います。それで、このしまなみ海道は、今年、CNNの旅行サイトで世界で最も素晴らしいサイクリングコース、7つ選ばれたんですがその1つに選ばれました。また、こういった整備をサポートするために実は、寄附付きの自動販売機があり、これは、企業広告を出していただいて、それを整備に活用するといったようなことも進めております。こういうふうに地域全体で、あるいは経済界、あるいは地域社会一体となってこれを盛り上げていくということが一番大事だと思っております。それで、鳥取でもすでに大山周辺などで路面標示をされたり、あるいは島根県と中海の周遊コースを整備をされつつあると伺っておりますけれども、こういった案内標識等は特に海外のお客様にとって国内でいろんな表示があると混乱をいたしますので、鳥取・島根と広島・愛媛でできるだけ共通化をしていって、それを全国に広めていってはどうかなと思います。

また、尾道松江線の全線開通に伴いまして、鳥取と島根、そして広島と愛媛のさまざまなサイクリングコースをつなげていくということもできるようになるのではないかと思いますので、こういったコースを海外も含めて連携をしてPRをしていくということで盛り上げていってはどうかなと思います。また、実は鳥取の方でも、我々より先進的な取組みもあると伺ってございまして、特に荷物の搬送ですね、これは、米子空港から大山等まで荷物を運んでくれるもので、自転車を抱えて空港に到着をしたら自分は自転車に乗って、それで荷物は宿などに届けてくれるというようなサービスと伺っています。我々もそういうことも必要だと思っております、連携して検討できたらいいのではないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【平井知事】 ありがとうございます。この分野では、広島県が全国でも先頭を切って走っておられまして、いろいろと我々も参考にさせていただき、勉強させていただきながら、サ

イクリストに満足していただけるリゾートづくりを進めていきたいと思っております。実は、鳥取県の周りでも今、ご紹介ありました大山周遊のルートでいきますと83kmぐらい、中海を回るルートで73kmぐらいの周遊ルートがございます。ですから、しまなみ海道とかさざなみ海道と同じような距離間での設定がございます。また、大山をダウンヒルで降りてきて爽快感を味わえるような20kmちょっとのコースもございまして、今、旅行商品化をしたり看板をつけたり、そうした動きが鳥取県内でも広がっております。ぜひ、旅行客の方が戸惑わないような統一感のあるおもてなしづくりということで、我々もよく話し合って勉強させていただきまして、日本に行って自転車に乗ってみようと海外の人にも思ってもらえる、そんなことを目指していきたいと思っております。

また、私どもではこの度、ジャパンエコトラックというのに加盟をいたしまして、そのルート認定をもらいました。例えば、SEA TO SUMMITルート、これは49km余りのルートになりますが、ここもルート上でございます。そのSEA TO SUMMITルートでは、トレッキングもあるんですが、自転車のコースもありまして、そうしたもののサポート体制をこれから春に向けて急ピッチで整備をしていこうと考えております。こうやって1つの塊が広島瀬戸内海側でできたり、私どもの方でできたりしていますので、1つこう、粗い約束のような形でツール・ド・ジャパンのように海外へ売り込んだり全国でもセットで売り込んでいく、そういうことができないかなと考えておりますので、また今後も相談をさせていただければと思います。また、将来的には中国地方をどんどん走り回れるようなルート設定まで広がっていければと思います。そういう意味で、広島側で言えば庄原の方をずっと上がってくる、そのときに例えば帝釈峠を抜けるような、そういうようなルートもあるわけですが、それが鍵掛峠から越えてこちらに入ってくる、そういう直接広島と鳥取を結ぶルートというものも将来的にはだんだん可能なルートになってくると**は**思いますし、松江道と平行して走る道路を利用して、そこに私どもで中海の周遊ルートを組んでいるもの、それに大山のSEA TO SUMMITルートや大山周遊ルート、こういうのを組み合わせれば1つのロードマップが完成することになります。これはソフトの面とハードの面と両方していかないとはいけませんので、沿線の皆さんにご理解とご協力を得る必要があるかと思っております。

実は、鳥取エリアではコグステーションというサービスエリアのようにサポートをしてくれるステーションをつくり、また併せてサイクルカフェと言われるようなお店を配置しまして、それで、ローソンと協定を結びまして、ローソンがそのサイクルカフェの役割を果たす、こういうことを順次展開をしていって、だいぶサイクリストにとって快適な環境が作られ始めていると思います。ぜひ、こうしたことを改良して企画化していくということも先程お話がございましたが、ぜひそういうふうにして中国地方一体となったサイクリングの受け入れができればと思いますので、よろしくお願い申し上げたいと思っております。

○アンテナショップを活用した連携の推進

【平井知事】 観光物産でいきますとアンテナショップを活用するというので、広島のTA

Uと連携ができればと思います。岡山の伊原木知事と共同しまして9月28日にアンテナショップをオープンしました。「ももてなし」というアンテナショップでございます。それで、おかげさまで今のところ順調にお客様がお見えになっております。12月に入りましたら山陰山陽の物産市のようなことをやれないかなと。広島県の担当の皆さんにもご了解いただいているんですけども、早速そういうことを共同で展開できればと思います。結局東京である程度情報発信をしていく、それで集客を図るためにはそういうイベントやスタンプラリーのような買い回りの連携を組む必要があると思います。ぜひこの辺でもご協力をいただければと思います。

【湯崎知事】 我々広島県ではブランドショップと言っておるんですけども、従来のアンテナショップというのが、この東京のマーケット情報を取り入れていくという側面がすごくあったのに対して、広島県の情報を首都圏に発信をしていくという観点から店づくりを進めてまいりました。そういう中でこれまでこの広島ブランドショップTAUというんですけども、順調にお客様も来ていただくようになりました。それで、その中で当然いろいろとこのイベントを企画したりするんですが、非常に効果があったものが他県とのショップの連携なんですね。銀座1丁目には7軒ほどさまざまな県のアンテナショップがありまして、そこで例えば、この夏、酒祭りというのをやったんですが、広島、山形、茨城、福井、徳島、高知、沖縄で、パスカードで買って、お酒1杯とおつまみ1品それぞれいただけますということで展開をしたところ、非常に効果がありました。また、10月からはご存じのとおり朝の連ドラマッサンが始まっております、これは竹原にある酒蔵出身の竹鶴さんがモデルになっているわけでありまして、このマッサン所縁で大阪と北海道と連携をしてスタンプラリーをやりました。この酒祭りのイベントは、1日あたり来店が2,700人になったりとか、マッサンもラリーの参加者が1,500人あるいは10月の来店者数も昨年を上回るというようなかたちで、このラリー、店舗連携が非常に効果があるかなと思っております。来店数、それから売り上げも伸びているという現状でございますけれども、その中でイベントは非常に効果があるということだと思います。この9月に5県のアンテナショップすべてが出揃いましたので、ぜひ今度は中国地方という観点で連携をした企画ができれば素晴らしいと思いますし、どんなテーマでやるとか、創意でやるかというのもぜひ事務方で検討して効果的なものができるように進めてまいりたいと思います。ちなみにあれですね、「ももてなし」とか、「蟹取県」とか、なんかユニークなネーミングですね。

【平井知事】 おいしい広島。

【湯崎知事】 はい。

【平井知事】 いいですね。ぜひ、おっしゃるようにやっぱり相乗効果って出ると思うんですね。東日本大震災後の傾向だと思いますけど、新鮮な安心安全の地方の食材なり、ものを直

接探して帰りたいというニーズが首都圏で広がっているように思います。これから日本全国のマーケットの動向を知る手掛かりにもなりますので、そういう誘客を図る意味で、先程利き酒と言いますか、飲み回りのご提案がございましたが、ぜひ、そういうことをちょっと岡山とも話をして、展開できればなと思います。ちなみにマッサンについては、あれ原作は川又一英さんという方が書いておられるんですけど、この方は鳥取県の公安委員長をしていた人の義理のお兄さんでございまして、そういうようなことで、皆びっくりしています。また、竹鶴酒造さんのご当主の息子さんの寿夫さんですかね、そこに鳥取県の東の方の若桜町にある弁天娘というお酒の造り酒屋である太田酒造さんの陽子さんがお嫁入りをしたということがございまして、なんか先般エキストラで本人も出たということを知りましたが、そんなことで非常にやっぱり地域性もあって、酒蔵同士のお付き合いもありますし、そういう飲み回りというのも面白いなと思いました。ぜひお力をいただきたいと思います。

○地域の特色を活かした子育て支援の推進について

【平井知事】 さらにそうした地方創生の関係でもう1つ大事なポイントは、人口が減少していくこととございます。そういう意味で子育て支援を一緒にやっっていこうということとございまして、今日は森のようちえんを実地に見に行っていました。やっぱり湯崎さん、子どもたちの前に現れましたら、ある子が「イケメンですね」とか言って寄ってきました。

【湯崎知事】 「誰かとどこか似ている」って。

【平井知事】 そうそう。そんな感じで「なんとかちゃんのパパに似ている」とか言われていましたね。湯崎知事はイケメンだけじゃなくてイクメンでもいらっしゃるわけでございまして、そのイクメンのシンボルである湯崎さんとぜひこういう子育ての関連施策を盛り上げていきたいなと思います。もちろん、子育て同盟でもいろいろやってきたことでありますが、今日の森のようちえんも厚生労働省と文部科学省の間に入って制度化できていないところでもあります。鳥取県も今、実際の経営者の方々が主導して、こういう認証を作ったらいいということでの認証手続きをしておりました。それに合わせた鳥取県なりの独自の新制度というのを作ってきているわけでございます。また、大学と連携しまして、体力増進などにどうい効果があるのかというのを鳥取県のみならず長野とか、そうしたフィールドも使いまして、調査をしたりしております。ぜひ、こういうまだ制度の間に挟まって、ちゃんと取り上げられていない子育ても含めて認証制度と一緒に作っていくとか、あるいは支援制度を考えると、その辺また湯崎知事の方からもご協力いただければと思います。

【湯崎知事】 幼児期にあるいは子どものときに多様な体験をするということが、子どもの発達にとって非常に有益であるということは、さまざま言われているところだと認識をしておりまして、そういう意味で、この森のようちえんというのは豊かな自然の中での活動であるとか遊び、そしてそれが創作活動につながっていくということで、好ましい発達につなが

るんじゃないかなと思っております。今、実は広島県では、社会で求められている人材育成ということを考えてときに、大学の話であるとかよくされていますけれども、大学から始めても遅いということもありまして、まず中等教育を検討しておりますが、さらにやはり幼稚園、保育所の段階からしっかりと取組んでいかなければいけないだろうという認識を持っております。そのために家庭教育支援の充実であるとか、あるいは教育・保育施設への支援、充実といったことも重要だと思えますし、こういった体験も推奨していくということも考えております。

そういう中で鳥取県の森のようちえんの認証制度というのも非常に意義ある取組みだと思っておりますので、またいろいろ勉強させていただきながら、検討を進めてまいりたいと思います。広島県にも7つほど団体があって、活動をしておるわけではありますが、正に間に入っているというところで、必ずしもどういう活動があるかという把握が十分でないので、その一定の認証というような、皆が安心できるような仕組みというのは意味があると思えますので、賛同させていただきたいと思えます。

○地方創生・分権について

【平井知事】 ありがとうございます。以上、地方創生に関連しまして、観光による地域おこしとか、それから物産、ふるさと名産品を作っていくといったことでありますとか、子育てについてトピックスをざっと見てきたわけではありますが、今、時あたかも、国会の方が分権を進めているようでもありますし、今、GDPもマイナス1.6%ということで、非常に消費税引き上げには厳しいかなという数字も出てきている。ただ、片方で我々がその地方創生なり分権ということをぜひとも政権の枠組みはどうか追いかけていかなければならないと思えます。今いろいろと一緒に議論してきた課題も含めて、これからの地方創生とか、分権に向けてまた湯崎知事の方のお考えも聞かせていただいて、ぜひ一緒にこれからも行動を起こしたり、あるいは国に対して働きかけたりということを考えていかなければいけないと思えますが、いかが見ておられますか。

【湯崎知事】 まさに突然の解散ということで、これから地方創生の動きというものもどうなるのかということも注視していかなければならないと思えますが、やはり今回の選挙を通じても、選挙の機会を通じても我々がこの地方として訴えていかなければいけないと思えますのは、地方創生を実現するためには、やはり大きくみて2つの仕事があることだと思えます。1つは我々自身がこの地方を魅力的にしていくということでありまして、今日ありましたようなテーマはすべてそういったことにかかると思えます。それで、もう1つは、国としてやはり取り組むべきことで、東京に集中している様々な根拠や財源あるいは経済機能を分散していくということ、これは真剣に取り組むということだと思えます。国が例えば企業の本社移転等を促進すると言っておりますけれども、そういったことを国だけでやっても地域がそれを受け入れる素地を作らなければ絵に描いた餅でありますし、逆に地方が企業の活動しやすい環境というさまざまなかたちで整えても、全く国がこの構造問題に手を入れようとしな

ければ、お客さんもやってこないということになるのかと思います。

またそういったことを地方がそれぞれの責任を持ってやると、今、ばらまきという意見もありますけども、ばらまきというのは、国が財源を持って渡すからばらまきであって、元々地方に財源があれば、ばらまきでもなんでもないのですけれども、そう批判されることの裏には権限とか、財源を移譲してないという問題があるということも含めて、きちんと取り組みを進めていただきたいと思います。そして我々が責任を持って、地方として進めていくことによって、本当に新しい日本の国づくりができるのではないかと考えています。

【平井知事】 そうですね。やはり分権と分散を図っていかなければいけないと思います。1つには、今おっしゃったように税財源も含めたきちんとした基盤が地方にまだ十分できていない。それはばらまきでもなんでもなくて、当たり前のように行政サービスを提供するのにふさわしい税財源の体系というのを作っていく、分権の1つの筋道だと思います。また、農地改革だとか、あるいはハローワークの問題もそうでありますけども、地方の方である程度自決できる、自分で決めることができる、そういう権限も必要だと思います。そういう分権と併せて大切なのは、今、急速にクローズアップされてきている分散の問題だと思うんですね。湯崎知事にまた後程お話いただければと思います。持論でいらっしゃるのは地方にはやはり企業が、その拠点を移すとか、企業活力を移していくようなことでなければいけないということだと思います。私は、この選挙戦にあたりまして、やはり企業が地方の方に本社機能を移転するとか、あるいは研究開発機能を移転するだとか、そうしたことを今以上に促進しなければいけないと思います。以前はそういうことに対応するために、例えば農村地域工業等導入促進法であるとか、いろんな法律のスキームなんかもあったり、また、工場等制限法のようなものがあつたりして、むしろ地方への分散を進めようとしていたんですが、それが小泉内閣のころに、基本的に撤廃されていってしまった。それと併せて東京への一極集中がまた強化をされていったという事情があると思います。

ですから改めて、税制上の優遇措置等で企業活力、あるいは大学について、そういうものを分散をさせていくアクセルをもう一度踏むべきだと思います。また、税務機関の中には地方にあってもいいものもあるでしょうし、こうしたことの分散を国も国で図っていかなきゃいけないと思います。それで我々は我々の方で知恵を出して地域それぞれの地域おこしを観光だとか、物産だとか子育てだとか、そうした面で展開をしていくわけでありまして、ただ、国は国で、ナショナルミニマムを整える、これもやっていかないとはいけなわけでありまして、その辺は撤退されても困るわけですね。今、子ども子育て支援制度を国が作ることになりましたが、消費税の引き上げが不透明になってくると、じゃあ、その財源はどうなるのか。地方で好きなようにやってください、ではナショナルミニマムが保たれないことになります。また、最低限の基礎的なインフラストラクチャーはばらまきだから一切やりませんということになりましたら、これは競争するための土台を失うことになりまして、地方創生の屋台骨がぐらつくことになります。ですから、地方創生の範疇に入れるかどうかはともかくとして、こういうナショナルミニマムや最低限の基礎的インフラストラクチャーのところ

もやはり国が責任を持ってやる、そうであれば我々も本気で地方創生をやって国全体を動かしていく力を地方から押し出していきたいということになるのだと思いますが、湯崎知事は、そういう企業の活力の問題だとか、いろんな情報もおありだと思いますが、いかがでしょうか。

【湯崎知事】 そうですね。後程、今日テーマとして上がりますが、例えば高速道路なんかもそうですけども、既に物流が車を中心となった時代に今もミッシングリンクがあるということ自体、非常に大きなネガティブ要因だと思うんですが、そういうところをしっかりと国が骨格をまさにナショナルミニマムとして作りながら、その上を我々地方が頑張る。それで頑張る上では仕事を作っていくということが非常に重要なんですけども、従来は工場を中心とした立地と拡散を図るということで進めてまいりましたが、やはり非常に重要なのは本社機能であるとか、R&D機能といった、いわゆるこの付加価値が高かったりとか、クリエイティブな仕事であったりとかそういう部分の分散も図るというか、パートナー的な部分の分散を図るということは非常に重要だと思います。それで、これは今、東京に集中しているのも必ずしも自然発生的に集中していったわけではなくて、やはりさまざまな規制権限に非常に近いところにいくことが経営上有利であるとか、そういったことがさまざまな産業の中で行われてきたということも大きな誘因となって東京に集中していったのだと思います。

それで一度集中が図られるとそこに若者が集まって来ると、若者が集まるので企業はまたそこで採用活動をしてそこに立地をしていき、それでさらに情報が集まると、こういったようなある意味で言うとスパイラルを描いて行っているわけでありまして、ところがこれらは今はもう過度に進みすぎているんだと思います。それが日本という国の多様性を失わせているんだと思いますね。すべてが東京発と、そのようなことになって、東京から数字をコントロールするとかいうようなことになっておりまして、これは世界的に見てもいびつな構造ですし、またそういう国々は、実は経済的には弱いという現状でもあると思います。ドイツとかアメリカといったような非常に地方分権であるとか、経済的地域分散が進んだ国の方が非常に経済が強いという現実もあると思います。そのためにもやはり企業の分散を図る方が私たちにとっても幸せでもありますし、それを何とか実現していくというのが次の大きな日本の国家構造のテーマではないかと思います。

【平井知事】 おっしゃるように日本の国家構造を変えていくということがまず1つあって、それと併せて企業、活力も含めて集中を排除していく必要があると思います。ぜひ湯崎知事も協力して、全国知事会という団体でもいいかなと思います。これからはし仮に解散総選挙ということがあれば政権があまりにも迷走した地方への分権だとか、あるいは地方創生を本気でやれる体制づくりを求めていくことにできればと思いますのでよろしくお願いを申し上げます。

○高速道路ネットワークの整備促進

【平井知事】 今話がありましたので、その高速道路のミッシングリンクの話を上申したいと思いますが、直接には広島と鳥取の県境で鍵掛峠という難所というほどの難所でもないのですが、積雪時期とかいろいろと苦労するところがございます。それで、これをどういうふうにネットワークをして強化していくかということが今議論されています。モニター上の地図で言いますと赤い丸をしてあるところですね、丸でつないであるところの江府三次道路という道路がございまして、これがその県境を越えて鳥取県の方にも入って来る道路でございます。これを長く整備をしようということですが、この一番大きな工事が3.5kmの鍵掛峠道路のトンネル、県境のトンネルでありまして、これは国の直轄事業で今までも整備をしようとして調査をしてきております。地方整備局管内で道路整備の状況が変わってくる時に次のテーマとしてここをつなげていくということが広島と鳥取県との交通アクセスをする上では大切だと思いますので、ぜひ早期の着工に向けて、広島県にも一緒に声を挙げていただければと思います。

また、この他にも広島県内でも今集中的にやっています尾道の松江尾道線のところとか、いろんなことがございますし、山陰におきましては東西の連絡道路がない。特に島根、山口の方までひっくるめると、まだ4割程度しか開通をしていないという実情がございます。ぜひ、こうしたミッシングリンクを今、湯崎知事もおっしゃいましたけれども、つないでいくことで国家構想を改めていく手掛かりにできればと思いますので、ぜひよろしくお願ひ申し上げます。

【湯崎知事】 鍵掛峠につきましては、特にこの峠部分の12kmが非常に通行が大変だということで、今、国が直轄代行ということで着手をしていただいていると理解をしています。今年度広島県側では用地買収であるとか、測量等を進めていると聞いておりますのでこの整備が着実に進むように鳥取広島両県で連携をしながら国に対しても働きかけをしてまいりたいと思います。そして、中国地方全体でやはりこのミッシングリンクを早期に解消していくことが日本の地方創生においても非常に重要だと思いますので、そういった面でも、私も中国地方知事会とか全国知事会でも当然ですけども、単県で国交省等に行くときにも必ずミッシングリンクの解消をお願いしますと言っておりますので、引き続き協力をして進めてまいりたいと思います。

【平井知事】 ありがとうございます。こうした地方創生に向けた我が国の基本的な戦略について広島県と鳥取県とで認識が共有できたと思います。また時代をともに開いていければと思いますのでお願ひを上申したいと思います。

○マイナンバー制度に係るシステムの共同調達について

【平井知事】 それでは最後に広島県の方からマイナンバー制度につきましてのご提案をうかがっておりますのでよろしくお願ひします。

【湯崎知事】 実はこのマイナンバー制度に伴いまして、これを扱うシステムというものを作っていかなければならないということになっております。この絵で行きますと一番左のコアシステムというのを国が整備をするんですが、それで各県中間サーバーというのは、これが全国で2ヶ所になりますかね。それでこの右側に統合宛名システムというのを作ってこのそれぞれの各県の持ついろんな税であるとか、新システムとつなげていくということをやらなければならないわけですけれども、これの調達についてできるだけやはり共同で進めていくのがいいのではないかなと思っております。先月岡山県知事との会議でこの統合宛名システムの共同調達について両県で検討していくことに合意をいたしました。クラウド化することで経費の圧縮ができると思っておりますので、参加団体が多いほどその効果は大きいと思っております。それでこれまで事務的、技術的な研究を進めているところですが、鳥取県とも連携をして、共同調達の検討を進めてまいりたいと思っておりますので、ご検討いただければと思います。

【平井知事】 これはクラウドシステムですか。

【湯崎知事】 クラウドです。

【平井知事】 それでは、他の都道府県も自由に参入しようと思ったらできるということですね。これはいずれもマイナンバー制度を構築していかなければいけませんし、そのためにいろんなアプリケーションがございます。総合宛名システムというシステムは少なくとも共通化できる部分だろうと思えます。では、これから事務的に調整させていただきたいと思えます。新年度予算に向けて取り組みますか。

【湯崎知事】 いや、実はもうこれ今年度予算に入っていますね。

【平井知事】 では、発注段階に入っているのですか。

【湯崎知事】 いやいや、まだです。それで、まだ設計段階で実際に構築する来年の方がヘビーになるような見込みです。これは、実はいろんな理由で作業が遅れているということもあるんですけども、もう1つこの問題は、マイナンバーはあくまでも国がそのマイナンバー制度を導入するよと言って進めたにも関わらず、さらにシステム開発は県でやりなさいと、勝手に決めておいて、あとは知らないよというような雰囲気に近いものになっていまして、そこもちょっと共同して取組まなきゃいけないんですが、やっぱりコストを抑えていくためにも、本当はこれは全国1本でもいいんじゃないかというぐらいなものだと思いますし、できるだけ参画県が増えるといいなと思っております。

【平井知事】 これは単純に言えば割り勘で下がって行くところですよ。そのスケールメリ

ットが働くというところで。

【湯崎知事】 そうですね、各県のところとつながる部分というところがそれぞれ用意をしなければいけないわけですが、そのコアの部分は、まさにクラウドですし1つやれば割り勘でどんどん安くなるというようなものだと思います。

【平井知事】 分かりました。では、今はそれぞれが持っている予算の執行の段階で共同でのその設計に入っていくと、それでそれを設計がまとまったらどこかに発注をして、また安いところに決めていくのでしょうか、そういうことで決めて3分の1それぞれ負担するというかたちですかね。では、鳥取県も参加の方向でぜひ検討させていただきたいと思います。他のところも誘っているのですか。

【湯崎知事】 中国地方だけでなく、他のところにも実際今声をかけています。

【平井知事】 クラウドですから別に全国どこの都道府県でも参加できるのですね。

【湯崎知事】 そうなんです、どこでも。どこでもいいんです。

【平井知事】 分かりました。それでは、仲間も増やせれば増やしていてもよろしいでしょうか。

【湯崎知事】 はい。

【平井知事】 以上で議事の方はまとめさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

4 閉会・記者会見

【岡崎局長】 ありがとうございます。では以上を持ちまして平成26年度鳥取広島両県知事会議を閉会させていただきます。

引き続きまして、この場所で15分間程度、記者の皆さまからのご質問を受けたいと思います。記者の皆さまには私の方が指名させていただきますので、社名とお名前をおっしゃっていただいてから質問をお願いいたします。それでは質問のあるかたはいらっしゃいますでしょうか。

【記者】 サイクリングのことでうかがいたいんですけども、湯崎知事の方からもさまざまな提案があったと思うんですが、そのうちの1つに、路面の標識が困惑するので、特に海外の観光客は困惑するというので統一のようなものを作ってみてはどうかという提案があっ

たと思います。平井知事のそれに対する回答は、中国地方一体となったサイクリングの受け入れを進めていきたいというような回答がありましたがこの路面標識について、中国地方で共通のものを作っていこうというようなお考えはあるのかどうか、そのあたり明確におうかがいできますでしょうか。

【平井知事】 今も、実は鳥取県は鳥取県なりに似たようなことをやっております。広島と同じようなことを今、実は大山周遊ルート等で始めていまして、あとはその看板標識なんだと思います。ただこれについては今後の調整が必要なのですが、私どもはジャパンエコトラックというところの認定をいただいている関係がありまして、そちらでの統一ロゴが1つ入るんですね。それで、その辺も十分フレキシビリティを持っていただきながら、要は人間が見て分かればいいということですから、一定の統一感があって分かる、そういうものをある程度の統一感を持って受け入れできる、その辺が目指せるのではないかと考えております。これは、今事務ベースでも全国的な問題として調整をしておるところでございまして、そういう中で広島と鳥取ともどっちかへ行ったけどもとっても違いがあって分からなかったということにならないように調整をさせていただきたいと思います。

【湯崎知事】 若干補足させていただきますと、「統一的な」というのはまさに統一的なとか、統一感があるということでありまして、広島と愛媛の間でも全てのもものが全く同じであるという、必要があるという認識ではありません。戸惑わない程度に、尚且つやっぱりそれぞれのご当地の特徴も出た方がいいと思いますので、そういったところも配慮しながらどうなのがいいのかというのを今議論をしているところでありますし、実は先程の絵の中にもあったんですが、島根と広島の間境を跨いだルートというのもありまして、今、島根との間でそういう議論をしております。そういう意味で4県が集まってどういった、どんなルールにしていくのかということを決めていければ、サイクリストにとっては分かりやすいものになっていくんじゃないかなと思います。

【記者】 広島のと砂災害のことでお聞きしたいんですけども、今回防災ヘリの連携等というのはうまくいったというふうに湯崎知事からお話があったんですけども、その他に連携でうまくいった部分、それともう1つ、一方で教訓とするべきところ、課題といったところというのがあれば教えてください。

【湯崎知事】 はい。連携の部分でというのは、実は冒頭にも申し上げたんですけども、今回の災害というのが地域的には非常に限られたものでありまして、例えば広島市という大きな市があって、その行政機能は特に何か失われたわけでもありませんし、県の機能、それから土木関係で言えば中国地方整備局というものもあったということで、広域的な連携をして、役割分担しながらやるという状況ではなかったんですね。それで、ただ、例えば消防の捜索であるとか、あるいはそれを含めたヘリですよ、こういったことについては、やはり

人手がいるので各県から応援をいただきまして、実はこの面では非常に連携がうまく進んだということです。それで、ドクターヘリも実際、今回はヘリで搬送しなければいけないというような事例もありませんでしたので、そこも課題にならなかったということです。

従って、今回は高知県も来ていただいて進めましたので、そういった面で課題があったというわけではないんですが、これがさらに大規模になって例えば物流に支障を来たすであるとかあるいは行政機能が一部失われるようなことになるとやっぱり連携が重要になると思います。そういったときに、これも先程申し上げましたけども、初めて相手のかたと顔を合わせますとかいうことになると、やっぱり実際に進めていく上ではいろんな問題、コミュニケーションが非常に重要なので、あるかなと思っています。今回の消防なんかの連携でうまくいったのも、消防は常日頃から中国5県あるいは四国と一緒に訓練をしたりしているものから、うまくいったというところがあると思いますね。ですから、まさに日頃の備えが重要ということで、日頃の備えでできてないことは、なかなか災害で突然できるわけではないというのが実感ですので、いろんなことを想定して訓練をしたり交流を持ったりすることが非常に重要なんじゃないかと思っています。

【記者】 マイナンバーですが、共同調達で合意したのは鳥取が岡山に次いで2番目ということでもよろしいでしょうか。あと、島根県にはすでに声をかけておられるのか、あるいは今後声かけされるのか、この点を教えてください。

【湯崎知事】 そうですね、当初岡山、広島で合意をしまして、鳥取がこれからもう少しご検討されて最終的に参画をするかどうかというのは決められると思いますが、この3県ということです。それで、島根県にもお声掛けはさせていただいておりますけれども、島根県は、単独で調達をするという方向だと聞いております。

【記者】 なぜ、単独でと言っているのでしょうか。

【湯崎知事】 それは、すいません。島根県に、聞いていただければと思います。

【記者】 それに関連してですが、やはり資金面だったり、できるだけ安くなれば安くなるだけいいと思うんですけども、これは、また締切りもあると思うんですけども、今後どれくらいの県にどういうふういつまでに呼びかけていこうということは決まっていますか。

【湯崎知事】 具体的な目標というのは、なかなか立てにくいところはあるんですけども、おっしゃるようにこれは期限が決まっていますので、そこに間に合う範囲でできる限り多くの県のご参画をいただきたいと思っています。

【記者】 もうちょっと具体的に何地方ということはあるですか。

【湯崎知事】 どこかの地方をまとめてというよりは、個別の県かなと思っています。

【記者】 先程、防災について人事交流の話と図上訓練だのお話が出ましたが、それは2県だけのお話なのか、5県含めてなのか、どういったお考えでしょうか。

【平井知事】 今日はもちろん2県の会議ですけども、中国5県としてそういう共同図上訓練の実施、これは集中豪雨型も含めてやっていこうとか、そういうふうに今動いてきております。また、いろいろ個別については各県それぞれの考え方もあるんですが、先程お話にあった防災ヘリをいざというときに出すとか、それから災害時の人的な支援であるとか、いろいろなリソースを共有化できるようにすることはあると思います。特に原子力災害については広域連携の重要な部分でございまして、こうしたことなどを5県の連携の枠組みの中でという話を今日はさせていただいております。

【記者】 時期的な目途についてお考えはありますか。

【平井知事】 これは、もうすでに進めておりますが、今回の広島での事象も下敷きにしながら、そういう経験を活かしていくように、今、各県間で調整をしております。

【岡崎局長】 他になければこれで終わりたいと思いますがいかがですか。では以上で記者会見を閉じたいと思います。ありがとうございました。

以上